

平成28年度～32年度

横浜市福祉の まちづくり推進指針

横浜に関わる全ての人がお互いを尊重し、
助け合う、人の優しさにあふれたまちづくり

ヨコハマがめざすまち

ソフトとハードが一体となった福祉のまちづくりを
みんなで進め、そのよさを次世代につなげることのできるまち



ソフト (思いやりの啓発・教育) の目標

みんなが互いに理解し、互いに助け合う、
人のやさしさにあふれたヨコハマ

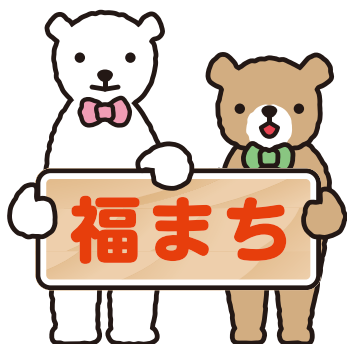
思いやりやゆずりあいの気持ちを育てる
ことが大切です



ハード (建物・乗り物・設備等の整備) の目標

みんなが安全に安心してまちを移動し、
さまざまな施設を利用できるヨコハマ

建物や道路、電車、バスなどのバリアフ
リー化が必要です

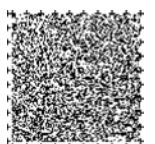


「横浜市福祉のまちづくり推進指針」は、福祉のまちづくりに
関する施策を、総合的かつ計画的に推進するための基本となる
ものです。

このリーフレットは横浜市福祉のまちづくり推進指針の概
要版です。詳細版はホームページでもご覧になれます。

横浜市福祉のまちづくり推進指針

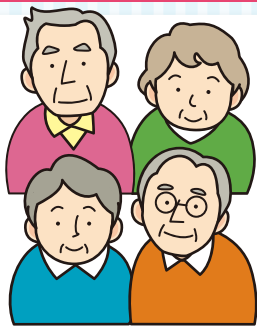
検索



横浜市を取り巻く **社会状況**

高齢化の進行

平成37年(2025年)には市内人口の26.1パーセントが65歳以上の高齢者になる見込みです。



家族の形態の変化

核家族化が進み、地域での交流や支え合いがますます必要とされます。



東京オリンピック・パラリンピックの開催

平成32年(2020年)には多くの外国の方や障害のある方が訪れます。また、平成31年(2019年)にはラグビーワールドカップの決勝戦が横浜で行われる予定です。



「福祉のまちづくり」を進めるための **4つの取組の柱**

取組
1

啓発

福祉のまちづくりに関する
啓発・教育の推進

取組
2

情報

必要な人に必要な情報が届く
仕組みと地域のつながり

取組
3

協働

福祉のまちづくりの
新しい担い手との協働

取組
4

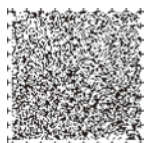
参加

利用者参加による
多様な施設のバリアフリー

福祉の
まちづくり

次のページから
4つの取組と地域での
取組事例を
紹介します

市民の皆さんをはじめ、あらゆる立場の人が、学校や地域などさまざまな場所で取組を行うことが重要です



取組
1

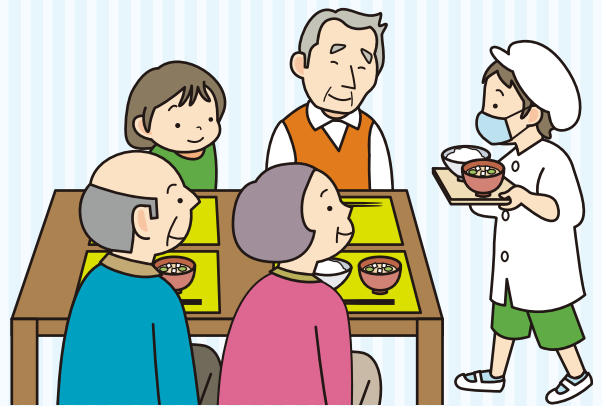
福祉のまちづくりに関する 啓発・教育の推進

- 社会には、高齢者・障害者・子育て中の人・外国人など、さまざまな人が共に暮らしています。
- それぞれの状況と必要な支援をさまざまな機会を通じて学習し、お互いに思いやりやゆずりあいの気持ちを持つことが重要です。

小学生のボランティア活動

新栄地域ケアプラザ(都筑区)では、一人暮らしの高齢者を対象とした昼食会で、地元の小学校の4～6年生のボランティアがお手伝いをしています。

地域ケアプラザでは、ボランティア活動のさまざまなお手伝いをしています。
興味のある方はお近くの地域ケアプラザまで。



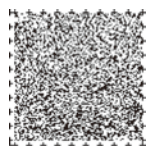
高校での福祉教育

鶴見区知的障害児者親の会「ひよこ会」が、鶴見総合高校の福祉科目を受講している生徒を対象に講座を行っています。
障害児の親から直接話を聴くことで、より障害への理解が深まっています。



精神障害への理解を深める

NPO法人横浜市精神障害者家族連合会では、精神障害者やその家族を支援するため、一般市民を対象に、「市民メンタルヘルス講座」や「市民精神保健福祉フォーラム」を開催し、精神障害者の家族支援についての医師の講演や、映画の上映会等を行っています。

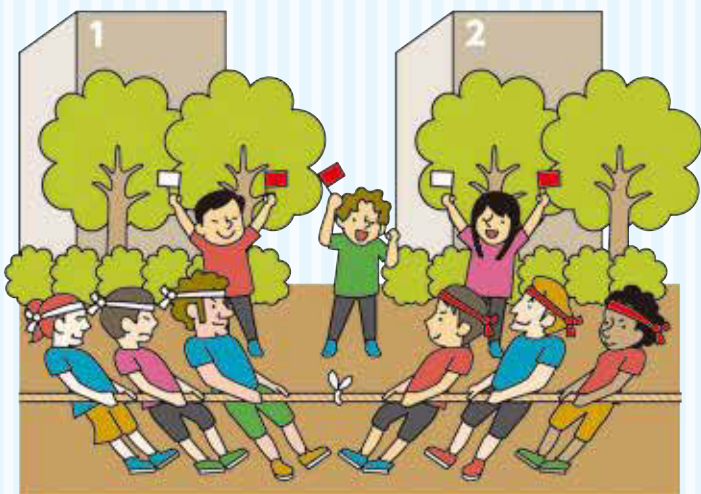


必要な人に必要な情報が届く 仕組みと地域のつながり

- 誰にでも分かりやすい情報を発信し、誰もが必要な情報を入手できる仕組みが必要です。
- 地域の交流拠点や活動場所を利用して、情報提供することも可能です。

コミュニケーションボード

コミュニケーションが苦手な知的障害や自閉症がある人などが、ボードに書いてあるイラストを示すことで意志を伝えることができる道具です。お店用、駅用、病院用、災害用があります。



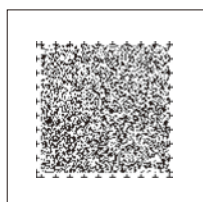
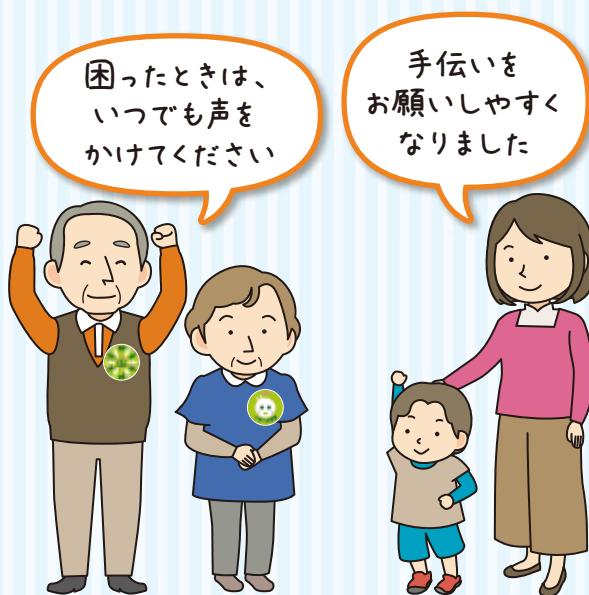
いちょう団地における多文化交流

住民の2割が外国籍の県営いちょう団地（泉区）では、言語や文化、生活習慣の異なる中、お互いを尊重しながら生活するために清掃活動、スポーツ大会、子どもイベント、防災訓練など、住民同士の交流を行い、顔の見える関係づくりに努めています。

港北区の子育て応援隊

子育て当事者グループ「こうほくnet ほいっぷ」が「子育てを応援したい」という意思表示をするためのバッジを作りました。

手助けをしてもらいたいお母さんたちが、声をかけやすくなる取組です。



取組 3

福祉のまちづくりの 新たな担い手との協働

- 市民・事業者・行政が一体となって協力し、福祉のまちづくりを行っていく必要があります。
- さまざまな事業者や企業等が福祉のまちづくりに取り組むことで、就労をはじめとする、障害者の社会参加につながります。

よこはまシニアボランティアポイント事業

高齢者が介護保険施設などでボランティア活動を行うとポイントがつき、貯まったポイントを寄付・換金できる仕組みです。新たなボランティアの担い手になるとともに、高齢者の社会参加につながっています。

地域の
いろいろな人と
知り合えたよ



健康づくり
にもなるね



地域と障害者の交流

精神障害の方が働いている栄区のパン屋ではパンの作成・販売を通じて、地域との交流を図っています。地元の小学校の開校40周年の際には、小学生がデザインした「40周年パン」を作りました。

障害者地域作業所などでは、パンやお菓子の他、雑貨や工芸品なども作成・販売しています。みなさんもお近くのお店で買ってみませんか？

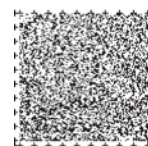
認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解してもらい、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になってもらうための講座です。認知症サポーターには認知症を支援する「目印」として、ブレスレット（オレンジリング）をつけてもらいます。学校や自治会・町内会、最近では、銀行やスーパーなどでも、この研修を行っています。

私たちも
受けました



横浜市の認知症サポーターは**17万人を超えています**。(平成27年12月末時点)



取組 4

利用者参加による 多様な施設のバリアフリー

- 建築物等のバリアフリー化を進めています。
- 施設整備等の際に利用者の意見を取り入れ、誰もが使いやすい施設や住みやすいまちが増えていきます。

公共施設のバリアフリー化

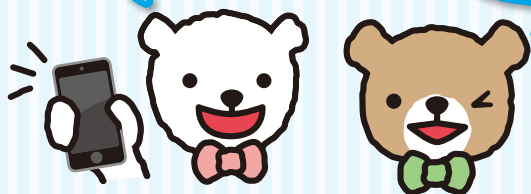
多くの人々が利用する施設や建築物等について、高齢者・障害者等が安全に利用できるように、バリアフリー化を推進しています。駅のホームからの転落や列車との接触事故防止などを目的とした安全対策のひとつとしてホームドアの設置を進めています。



トイレについての情報提供～Check A Toilet(チェックアトイレット)

「チェックアトイレット」
で検索

トイレ情報の
投稿を
待ってるよ

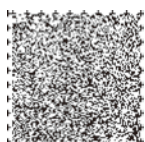


NPO法人Checkでは、インターネット上で車いす対応トイレやベビーベッド、授乳室などの情報を提供するサイトを運営しています。学生をはじめとするさまざまなボランティアがスマートフォンなどを使って、トイレの情報を提供しています。

ベビーカーマーク

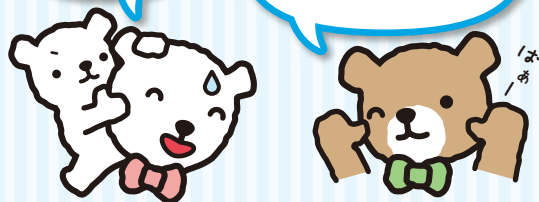
子どもの安全を守り、子育て世代に利用しやすい環境を作ることを目的に、「ベビーカーマーク」が作成されました。市内の公共交通機関でも、普及が進んでいます。

ベビーカー使用者と周囲の人がお互いに快適に過ごせるよう、ベビーカー使用者には「周囲に配慮したベビーカーの操作を心がけること」を、また、周囲の人には「ベビーカー使用者に対する気遣い・見守り・手助け」などの理解を求めています。



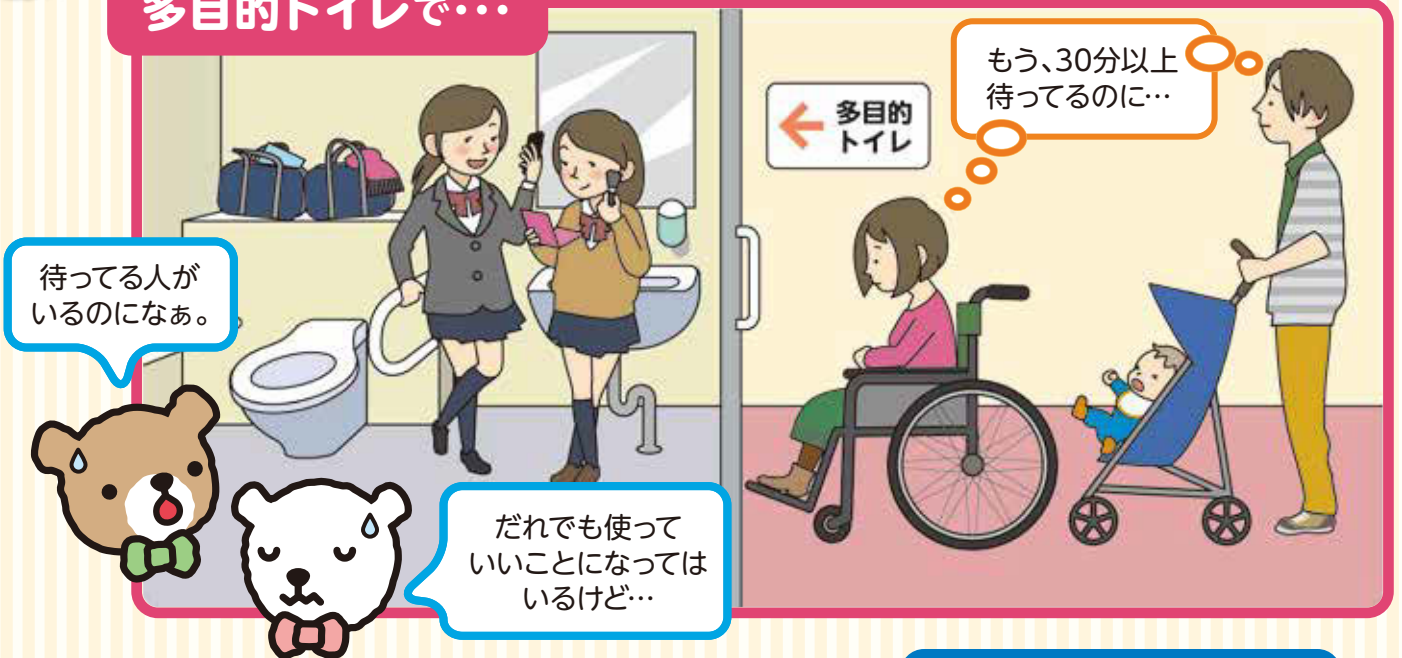
子育てって
大変だよ

お互いに
気づかえると
みんながハッピー

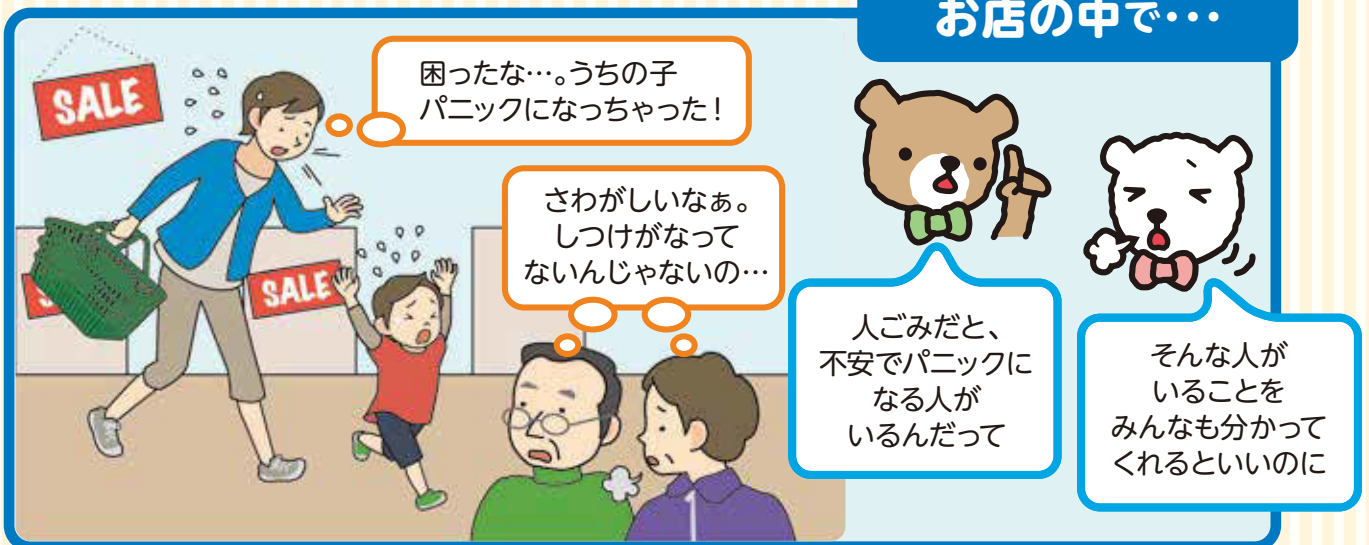


あなたのまわりでもこんなことはありませんか？

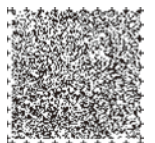
多目的トイレで…



お店の中で…



事故で電車が止まったら…



あなたのまわりでも こんなことはありませんか？

エスカレーターで…



あぶない！
ぶつかったら落ちちゃう！

エスカレーターって、
歩いたり走ったり
するものだけ？



遅れる～!!

転ばないように
手すりを…



電車・バスの座席で…

座りたいな

心臓が悪いから
立つのはつらい…



元気な人がゆずって
ほしいよな

健康そうに見えても、
障害がある人も
いるんだね



心臓や呼吸器疾患など
内部障害(見えない障害)
の人もいるんだね



地域でのボランティア活動・
福祉教育に興味がある方

横浜市社会福祉協議会
(横浜市ボランティアセンター)

☎ 045-201-8620
FAX 045-201-1620

問合せ先

福祉のまちづくり推進指針に
ついて

横浜市健康福祉局
地域福祉保健部福祉保健課

☎ 045-671-2387
FAX 045-664-3622

発行・問合せ先

